

仲間とつながる子供を育てる学級活動(1)の指導

自他の考えを整理する話合いの工夫を通して

うきは市立大石小学校
教諭 池田 明日奈

こんな手立てによって…

自他のアイデアを比較、調整し、折り合いを付けることができるようにするために、「自他の考え整理する話合い」を話合いの過程に位置付けたら…

こんな成果があった！

集団のために自分ができることをして関わりを深めたり、いろいろなことに挑戦して、共に成長したいという願いをもつ子供が育った。

1 考えた

本研究では、仲間とつながるために、自他のアイデアをよさや不十分さの共通点や差異点に着目して見直し、よりよいアイデアに練り上げた上で折り合いを付ける子供の姿を目指した。そのために、問題を解決する方法を見いだす話合い活動の基本的な過程を、「出し合う」「比べ合う」「整理する」という三つの段階で構成することを考えた。そして、その活動が生きる授業づくりの構想を、「所属感や連帯感を深めることができる議題選定の工夫」「自他の考えを整理する話合いの工夫をいかした学習過程の具体化」「言語活動の充実を促す支援」の3点から具体化することを考えた。さらには、目指す子供の姿を「共有性」「責任性」「創造性」の3側面から分析して作成した振り返りカードを生かして、具体化を図った授業づくりの有効性を検証する方法を工夫した。

2 やって見た

「自他の考えを整理する話合いの工夫」を生かした話合い活動の有効性を、実践1－議題「ラブきおピー集会の内容を考えよう」、実践2－議題「係祭りの内容を考えよう」の実践を通して検証した。実践1においては、「所属感や連帯感を深めることができる議題選定の工夫」、「言語活動の充実を促す支援」の有効性を検証することができた。実践2では、実践1で明らかになった課題を踏まえて工夫改善した「自他の考えを整理する話合いの工夫を生かした学習過程の具体化」の有効性を検証することができた。

3 成果があった！

仲間とつながるプロセスにおいて重視した以下の子供の姿が見られた。

- ・学級の仲間とのかかわりを見つめ直し、学級の生活上の諸問題を解決しようとした。
- ・みんなの思いや願いを叶えるために、役割や責任を意識し遂行した。
- ・問題を解決する取組に対するアイデアや方法を考えたり、提案したりしようとした。

仲間とつながる子供を育てる学級活動(1)の指導

自他の考えを整理する話合いの工夫を通して

1	主題設定の理由	3
	(1) 新学習指導要領の内容から	3
	(2) 子供の実態から	3
	(3) これまでの指導の反省から	4
2	主題の意味	4
	(1) 仲間とつながることについて	4
	(2) 仲間とつながる子供について	4
	(3) 仲間とつながる子供を育てる学級活動(1)について	5
3	副主題の意味	6
	(1) 自他の考えを整理する話合いとは	6
	(2) 自他の考えを整理する話合いの工夫とは	6
4	研究の目標	7
5	研究の仮説	7
6	研究の具体的な構想	7
	(1) 所属感や連帯感を深めることができる議題選定の工夫	7
	(2) 自他の考えを整理する話合いの工夫を生かした学習過程の具体化	8
	(3) 言語活動の充実を促す支援	8
	(4) 子供の育ちを客観的に捉える指標の作成	9
7	研究の実際	9
	(1) 実践1 議題「ラブきおピー集会の内容を考えよう」	9
	(2) 実践2 議題「係祭りの内容を考えよう」	17
8	研究のまとめ	
	(1) 研究の成果	23
	(2) 今後の課題	25
<参考文献>		25

仲間とつながる子供を育てる学級活動(1)の指導

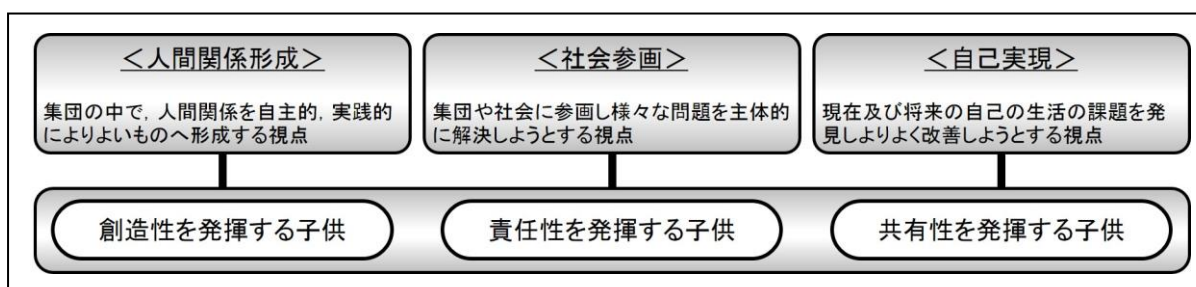
自他の考えを整理する話合いの工夫を通して

うきは市立大石小学校
教諭 池田 明日奈

1 主題設定の理由

(1) 新学習指導要領の内容から

これからの特別活動では、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」といった三つの視点が特に大切にされている。それは、特別活動で育まれた資質・能力が社会に出た後の様々な集団や人間関係の中で生かされていくからである。これからの時代の求められる資質・能力は「主体的に判断できる」「多様な人々と協働していくことができる」「新たな問題の発見・解決につなげていくことのできる」といった要素が重視されている。「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点と本研究には、以下に示すつながりがある。



このことから、本研究は、これからの特別活動における学習指導に合致するものである。また、OECDは、「協同問題解決能力調査」を行った。これは、これからの社会では、複数人のチームで問題解決に効果的に取り組むための能力が必要になってくることを示唆しているといえる。以上のことから本研究は、これからの社会の要請にも合致するものであり、たいへん意義深いといえる。

(2) 子供の実態から

下の円グラフは、実践前に学級の子供達にとってアンケートの結果である(図1)。

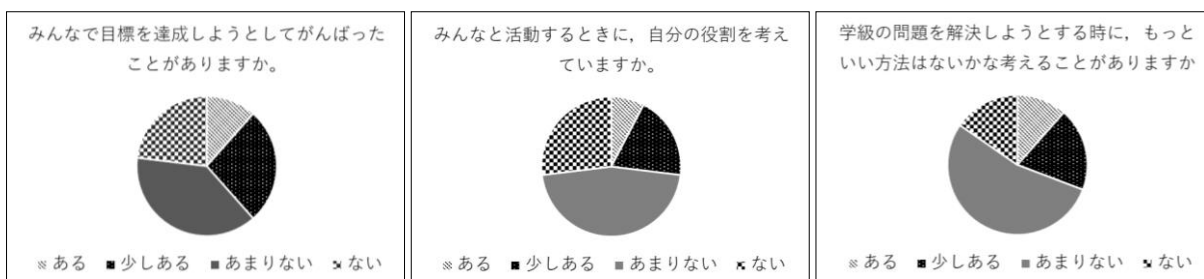


図1 集団活動に関する子供の意識調査の結果

子供たちの実態は、「目標の達成に向けて頑張る」ことに関する肯定的な回答は、約40%であり、共有性が低い状況である。「役割の自覚」に関する肯定的な回答は、約25%であり、責任性も低い状況である。さらには、「よりよい解決方法の思考」に関する肯定的な回答は、約35%であり、創造性も低い状況である。このような子供の実態から、共有性、責任性、創造性を育てることを目指す必要性が明らかになったので、本研究主題を設定したのである。

(3) これまでの指導の反省から

これまで、特別活動における話し合い活動を通して、集団をよりよくしていくために、自分の役割を責任をもって果たし、自分は役に立っていると実感することを目指して指導をしてきた。しかし、そのような子供を育てることができていなかった。その原因を以下のように分析した。

- 限られた児童の発言で話し合いが進み、集団をよりよくしていくための原案について深く考えさせず安易に同調させていた。
- 教師の指示や助言が多く、子供たちに主体的に話し合わせることができていなかった。
- 役割分担はしているが、特定の子の活動が多く、学級の全員が協力して活動に取り組むことができていなかった。

このことから、子供たちによりよい問題の解決方法について、安易に同調させるのではなく、深く考えさせ、よりよいアイデアを練り上げた上で折り合いをつけるような話し合いを仕組む必要性が明らかになったので、本副主題を設定したのである。

2 主題の意味：仲間とつながる子供を育てる学級活動（1）の指導

(1) 仲間とつながるとは

集団をよりよくしようとする活動に取り組む過程において、自他のよさに気付き、認め合うようになったり、目標の達成に向かって集団で活動する価値を見いだしたりして、集団を構成するメンバーとの心理的な結び付きを強化しようとするものである。

「この集団のために、もっと自分ができることをして、かかわりを深めたい」「みんなと一緒に、もっといろいろなことに挑戦して、支え合って共に伸びたい」という集団を構成するメンバーとの心理的な結び付きは、時間や空間を共有すれば自然に強化されるものではない。所属感や連帯感を深める体験を積み上げていくことによって育まれていくものである。

- ・所属感 …… 集団の一員として自分の役割を果たしながら、「自分もこの集団の役に立っていることをみんなから認められている」という手応えを感じる。
- ・連帯感 …… 一人では実現することが困難な目標を、みんなが責任をもってやり遂げたことに喜びを感じ、さらに集団をよりよくしたいという思いをもつこと。

(2) 仲間とつながる子供とは

集団をよりよくするために解決しなければならない問題を見いだしたり、問題を解決するためのアイデアについて合意形成を図ろうとしたりするとともに、問題の解決に必要な役割を責任をもって遂行しながら所属感や連帯感を深めていく子供である。

所属感や連帯感は、問題解決に貢献しようとする集団への積極的なかかわりをもつことによって育まれる。つまり、図2に示すように、共有性、責任性、創造性を発揮しながら集団の問題の解決に取り組む体験を重視するということである。

[共有性] …… 自分達の集団をよりよくする目標に価値を見だし、その目標に迫るために、集団生活の充実と向上を目指そうとする。

[責任性] …… 問題を解決するための解決方法と照らし合わせながら、自分が担う役割を考え、責任感をもってその役割を遂行しようとする。

[創造性] …… 問題を解決するアイデアや方法を積極的に提案したり、相手の意見を尊重したりする態度を身に付け、少数意見にも配慮しつつ、他者の提案と折り合いを付けたりしてよりよい考えを見いだそうとする。

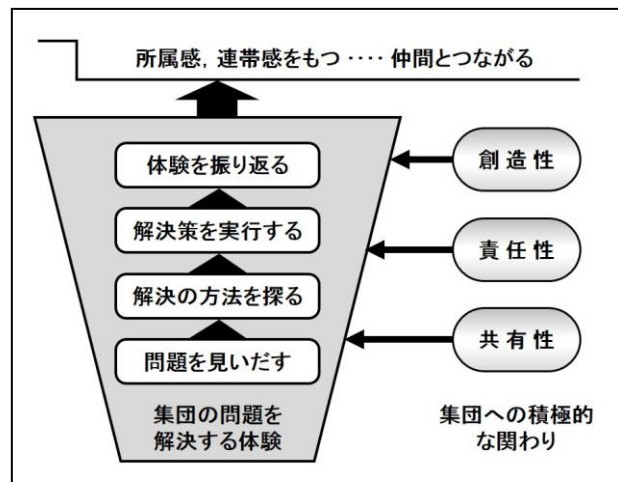


図2 仲間とつながる子供の姿のイメージ

以上のことから、本研究が目指す子供が身に付ける資質・能力を明らかにした（資料1）。

- よりよい集団を目指して、目標を達成する上での困難な問題を解決するためには、役割を分担したり協働したりする必要性を理解するとともに、効率的な話し合いの進め方や自他の考えを生かしたり補ったりする合意形成の仕方を理解することができる。（知識及び技能）
- 自他の考えを関連付けながら条件や折衷案を出し合ってよりよい集団決定を図ろうとしたり、テーマに沿って自分の言葉で話す、意見と意見をつなぐという言語能力を発揮したりして、共有した目標を達成する達成感や満足感を味わうことができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 自他の存在と役割に関心を持ち、よりよい関係を築こうとするとともに、今までと同じでよしとするのではなく、知恵を出し合いながら集団の新たな文化をつくり出したり、取組を充実させたりすることに価値を見いだそうとすることができる。（学びに向かう力、人間性等）

資料1 仲間とつながる子供が身に付ける資質・能力

（3）仲間とつながる子供を育てる学級活動（1）について

所属感や連帯感を深める体験を積み上げていくという研究の重点を踏まえて、本研究を進めるに当たっては、学級活動（1）における授業づくりの工夫を考える。学級等における共同の問題を、集団討議による集団決定を通して解決していく学習過程の質を高めることによって、子供一人一人が共有性、責任性、創造性を発揮しながら集団にかかわっていくことを促し、資料1に示した資質・能力を育むことにつながると考える。

そこで、自他の考えを比較したり調整したりして、折り合いを付けることを目的とする話し合い活動の工夫を明らかにすることが必要であると考えられる。

3 副主題の意味：自他の考えを整理する話し合いの工夫を通して

(1) 自他の考えを整理する話し合いとは

学級等の問題を解決するために考えた自他のアイディアのよさや不十分さを明らかにする。そして、それぞれのアイディアをよさや不十分さの共通点や差異点に着目して見直し、よりよいアイディアに練り上げた上で折り合いを付けようとする一連の話し合いである。

学級活動（1）における話し合い活動を、問題の解決に向けて有効に機能させるためには、以下のようなポイントに留意する必要があると考える。

- ・自他の考えにはどんなよさや不十分さがあるのかを明確にした上で比較検討すること。
- ・よさや不十分さの共通点や差異点を踏まえて、問題を解決する方法として実効性があるか、協力して取り組むことができるかなどの観点から折り合いを付けること。

そこで、本研究では、問題を解決する方法を見いだす話し合い活動の基本的な過程を、「出し合う」「比べ合う」「整理する」という三つの段階で構成することを考えた。

-----▶ 出し合う	▶ 比べ合う	▶ 整理する -----▶
多様な考えを理解する	自分の立場を主張する	折り合いを付ける
<ul style="list-style-type: none"> ・原案に対する自分なりに考えた解決方法を、話し合い計画係に提案する。 ・話し合い計画係が原案をまとめて学級全体に説明し、原案の内容についての共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画係がまとめた原案を目的に照らして比較する。 ・問題の解決方法としてよいと思う原案を選択し、その理由を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各原案に共通する（違いがある）よさと不十分さを確かめる。 ・原案を修正して全体に提案し、集団決定を図る。

問題の解決方法を「出し合う→比べ合う→整理する」ことは、必然的に共有性や責任性、創造性を意識したり、発揮したりすることになり、所属感や連帯感を深めていくことになると思う。

(2) 自他の考えを整理する話し合いの工夫とは

自他のアイディアを見直し、よりよいアイディアに練り上げて折り合いを付けていく「整理する」段階に、小集団で討議する活動を効果的に位置付け、共通点や差異点に着目して比較したり、調整したりする思考を旺盛に働かせて、問題の解決方法を集団決定することである。

自他のアイディアに折り合いを付けるためには、「私は原案Aに賛成だ。」という「私」を主語にした考えを、「今の私たちは、原案Aに取り組むことが大事だと思う。」という「集団」を主語にした考えに変換することが必要である。そのためには、次のような思考を働かせなければならない。

- ・比較する …… 原案に生かされているアイディアのよさや不十分さには、どんな共通点や差異点があるのかを探り、原案の改善に向けた視点を明らかにする。
- ・調整する …… 共通点や差異点に着目して明らかになった視点を生かして、他者の意見のよさを自分の考えに取り入れたり、相手の考えに付加する条件を考えたりする。

そこで、二つの思考を旺盛に発揮することができるように、小集団で自他のアイディアについて討議する活動の工夫を考えた。具体的には、図3に示すように「整理する」段階を「確かめる」「改善する」「決める」という三つの活動で構成するということである。

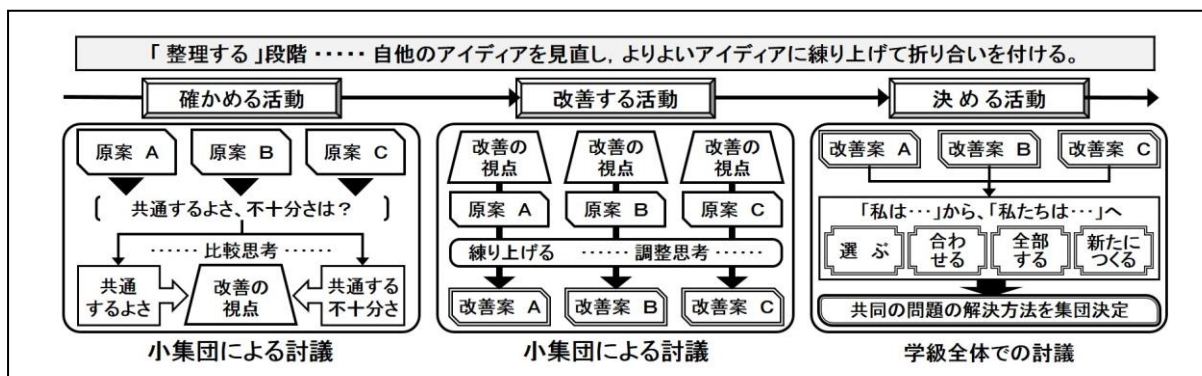


図3 「整理する」段階に位置付けた「確かめる」「改善する」「決める」活動

なお、図3に示した一連の活動は、「何をするか」(柱1)を決める話し合い活動に位置付けることを中心に研究を進めていく。なぜならば、子供一人一人が共有性や責任性、創造性を意識したり、発揮したりする可能性が、「どのようにするか」(柱2)、「どんな役割があるか」(柱3)と比べて大きいと考えるからである。

4 研究の目標

学級活動(1)の学習指導において、仲間とつながる子供を育てるために、自他の考えを整理する話し合い活動を生かした授業づくりの具体的な構想を明らかにする。

5 研究の仮説

学級活動(1)の話し合い活動において、「何を」を決める話し合いの「整理する」段階を「確かめる」「改善する」「決める」という三つの活動で構成し、自他のアイデアの共通点や差異点に着目して比較したり、調整したりする小集団による活動を効果的に位置付ければ、所属感や連帯感を深めながら共有性、責任性、創造性を発揮して、仲間にかかわろうとする子供が育つであろう。

6 研究の具体的な構想

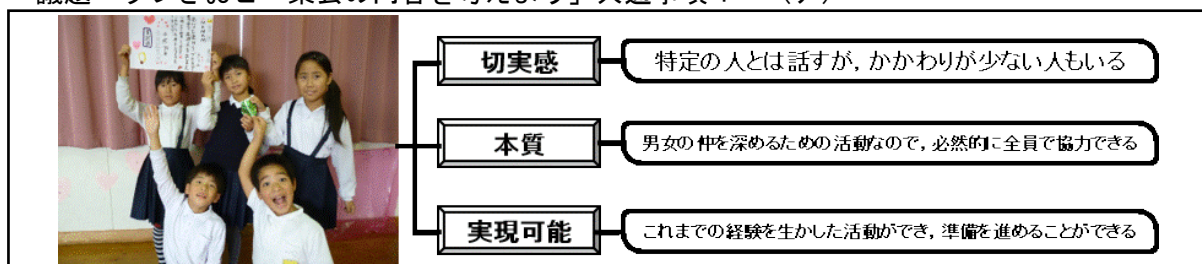
(1) 所属感や連帯感を深めることができる議題選定の工夫

所属感や連帯感を深め、仲間との心理的な結び付きを強めることができるような議題は、議題ポストを活用しながら、以下に示す三つの視点から選定する。

【 切実感があるか 】 何とかして解決したいという 共同の問題を含んでいる。	【 本質にせまれるか 】 全員で協力し合いながら、よ さを認め合うことができる。	【 実現が可能であるか 】 自分たちで計画を立てて、準 備まで進めることができる。
--	--	---



議題「ラブきおピー集会の内容を考えよう」共通事項1-(ア)



(2) 自他の考えを整理する話し合いの工夫をいかした学習過程の具体化 (資料2)

- 「出し合う」段階 …… 原案の内容に関する情報を視覚化, 数量化して提示する。
- 「比べ合う」段階 …… 提案理由 (目的) とつないで, 自分の立場を明確に主張する。
- 「整理する」段階 …… 小集団で「発言シート」等のツールを活用し, 比較, 調整を図る。



段階	学習活動	
事前	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共同の問題を選定する <ul style="list-style-type: none"> ・議題カードに議題を書く。 ・選定した議題について全員に知らせ、承認を得る。 ○ 共同の問題を把握し, 自分なりの考えをつくる <ul style="list-style-type: none"> ・全員が理解できる提案理由になるように, 提案者に助言する。 提案理由に沿った自分の考えを学級会ノートに書く。 ○ 流れを想定して, リハーサルを行う <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの見通しをもたせるために計画に沿って, 進め方を確認する。 	
出し合う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な考えを理解する <ul style="list-style-type: none"> ・提案者の説明に具体性をもたせるために, 映像資料を活用する。 ・決まっていることは, 視覚的に振り返りやすいように模造紙に掲示しておく。 ・計画係が原案をまとめて全体に説明し, 原案の内容について共通理解を図る。 	
比べ合う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の立場を主張する <ul style="list-style-type: none"> ・計画係がまとめた原案を目的に照らして, 共通理解する。 ・問題の解決方法として, 良いと思う原案を選択し, その理由を伝え合う。 	
整理する	確かめる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 原案のよさや不十分さの共通点と差異点を比較する ・改善シートを活用して, 共通点と差異点を明らかにする。
	改善する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 改善の視点をもとに, 原案を練り上げる ・改善の視点を生かして, 他の原案と調整を図るアイデアを検討する。
	決める	<ul style="list-style-type: none"> ○ 改善案をもとに集団決定する ・提案理由に立ち返り, 集団決定を図る。
事後	<ul style="list-style-type: none"> ○ 決まったことを学級活動コーナーに掲示する <ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を共通理解し, みんなで実践できるようにする。 ○ 実践に向けて, 準備を行う <ul style="list-style-type: none"> ・活動の計画を立てる。 ・計画に沿って準備を進める。 	

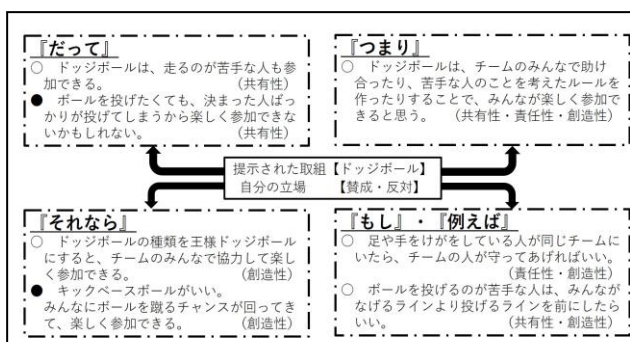
資料2 学習過程の具体化

(3) 言語活動の充実を促す支援

発達の段階に即した「聞く・話す」などの基本的な言語能力が培われなければ, 話し合いも深まらない。そこで, 以下の二つの支援を中心に「聞く・話す」活動の充実を促すことを考えた。

○ 「何をするか」についての自分の考えを表現しやすい学級会ノートを議題ごとに作成する。

○ 根拠が明確な発言を子供たちから引き出すために, 語り出しの言葉に着目した「発言シート」を開発する。



資料3 語り出しの言葉モデル「発言シート」

(4) 子供の育ちを客観的に捉える指標の作成

本研究では、仲間とつながる子供の姿を共有性、責任性、創造性の3側面から捉えることを重視する。そこで、3側面についての育ちを見取るために、資料4に示す指標を設定する。さらには、指標の各項目について子供一人一人が4件法で自己評価をする。その平均スコアを節目ごとに追跡して、自他の考えを整理する話合いの工夫の有効性を明らかにしていく。

共有性	1	自分たちの学級には、どんな問題があるのか考えて、それを自分たちで力を合わせて解決しようとしていますか。
	2	根っこを太く強くなるためには、みんなでどんなことに取り組んだらよいかを考えながら活動していますか。
責任性	3	学級の問題やみんながもっている思いや願いをかなえるために、どんな係や役割があったらよいかを考え活動していますか。
	4	自分がまかせられた係の仕事や役割を、と中でトラブルや新たな問題に出会っても最後までやりとげようとしていますか。
創造性	5	根っこを太く強くなるための活動をよりよくするために、人の意見を聞くだけでなく自分でアイデアを考えたり、提案したりしていますか。
	6	みんなで考えたアイデアをいかした活動や集会を楽しんだり、ふり返ったりすることができましたか。

資料4 子供の育ちを客観的に捉える指標

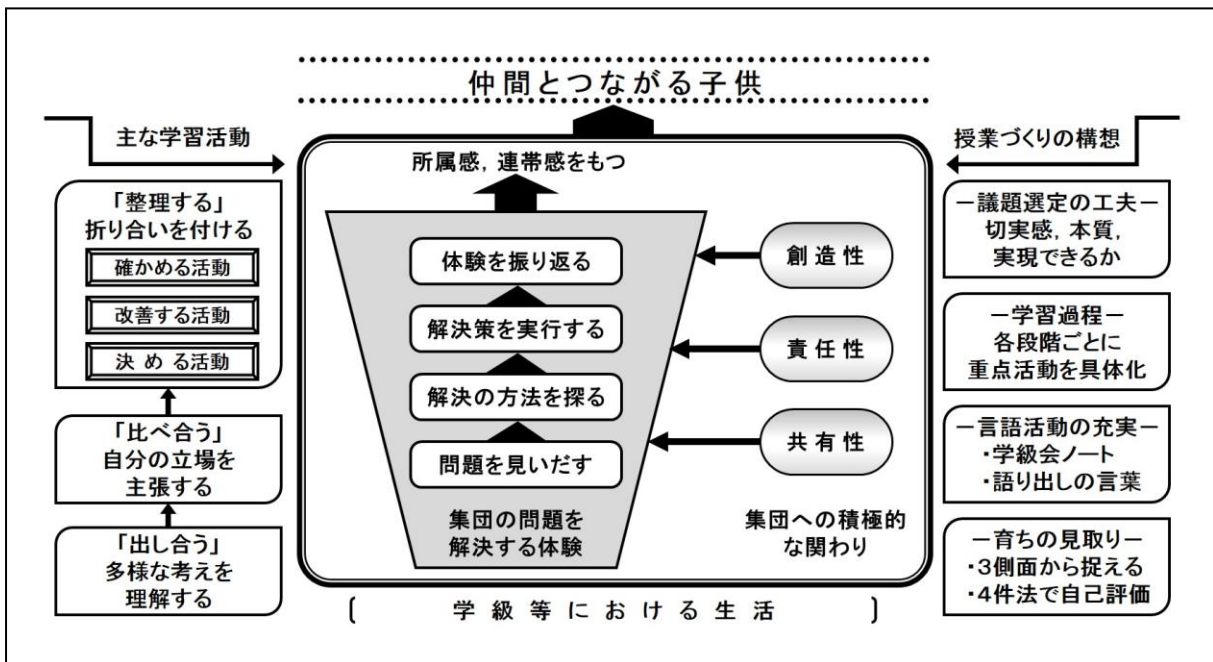


図4 研究の全体構想図

6 研究の実際

(1) 実践1 議題「ラブきおピー集会の内容を考えよう」共通事項1-(ア)

① 本議題のねらい

- ・学級の全員との仲をより深めることについて、提案理由に立ち返りながら語り出しの言葉を使って自他の考えをつなぐことや、共通点や差異点を整理して練り上げた改善案を基に集団決定をする話合いの仕方を理解することができるようにする。(知識及び技能)
- ・ラブきおピー集会に向けて学級の全員と協力して集会の内容を提案したり、学級の全員が楽しみ、男女の仲が深まる内容かという観点から自他の考えを価値付けたりして、お互いの思いやアイデアを生かしたラブきおピー集会を実践することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・学級の全員が男女の仲の深まりを実感できるラブきおピー集会に関心をもち、一人一人がラブきおピー集会の内容を進んで考えたり、役割を分担しながら準備に取り組んだりして、ラブきおピー集会を楽しもうとする態度を育てる。(学びに向かう力、人間性等)

② 授業づくりの構想

議題の選定について	学習過程の具体化について	言語活動の充実について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 切実感があるか 男女の仲がいいように見えるが、特定の友だちとは仲がよく、あまり話さない友だちもいるため、何とかしたいという思いをもつ。 ・ 本質にせまれるか 男女の仲が深まることが目的なので、必然的に仲のいい友だちではない友だちとかかわる機会が多くなる。 ・ 実現が可能であるか プレゼンをしたり、集会活動をしたりした経験を生かして、自分たちで準備を進めることができる。 	<p>～「整理する」段階を中心に～</p> <p>※図5を参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 確かめる活動では それぞれの原案に共通するよさや不十分さを確かめることができるように、3人グループで比較する。 ・ 改善する活動では 少人数のグループで、よさを生かしたり、不十分さを修正したりする調整思考を働かせて、原案をよりよい考えにつくり変える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級会ノートの作成 事前に、ラブきおピー集会の内容についてのアンケートをとり、その結果を計画係が原案としてまとめる。その原案をのせた学級会ノートに自分なりの考えをまとめた上で、話し合い活動に臨むことができる。 ・ 語り出しの言葉の活用 学級会ノートに自分の考えをまとめるときに、「だって」や「もし」「例えば」などの語り出しの言葉を使って表現する。

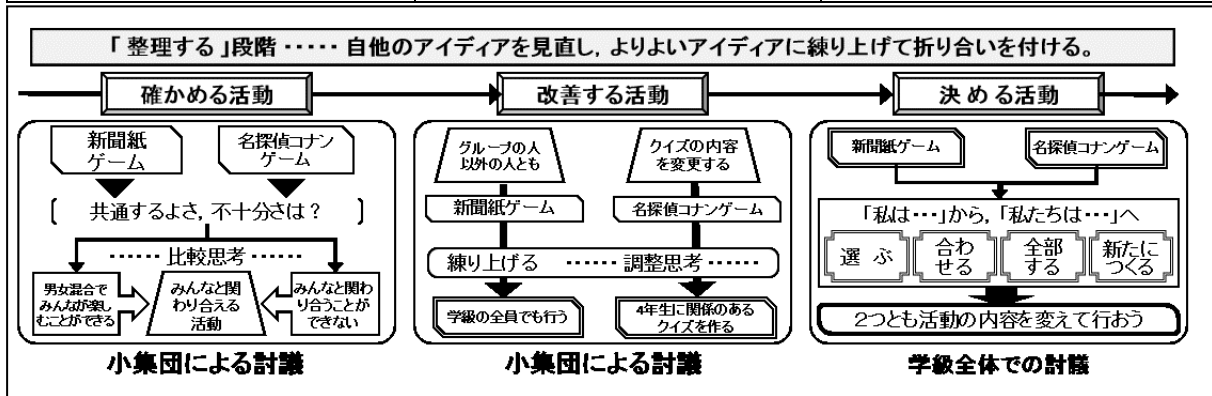


図5 「整理する」段階における具体的な活動構成

③ 指導の実際について

自他の考えを整理する話し合いの工夫を中核とした、【事前の活動】【話し合い活動】【事後の活動】における自発的、自治的な活動の展開は以下のとおりである。

ア 活動の流れと子供の反応

【事前の活動】

大きなトラブルも無く男女仲のいい学級であったが、子供たちの中には、「〇〇ちゃんとは話すけれど、〇〇ちゃんとはあまり話したことがない。」や「男子の仲のいいメンバーとは休み時間に遊ぶけれど、他の男子とはあまり遊ばない。」といったような学級の男女の仲に満足感を感じていない子が多いという現状をつかむことができた。子供たちの中には、学級の全員と、「もっと仲良くなりたい・みんなで学んだり、遊んだりしたい。」という思いがある。そこで、学級目標「根っこ～友だちと支えあい、目標に向かってがんばるクラス～」に近づくよう、特定の仲のいい子だけではなく、学級の全員とかかわりをもつことができる活動を行い、学級の全員との仲

を深める。そして、「3学期もみんなで支え合い協力して、目標に向かってがんばる学級にしていこう。」という思いを込めてラブきおピー集会の議題を選定し、自分たちで解決していこうという意識をもつことができた。

※ きおピーとは、本学級のマスコットキャラクターである。このことから、学級への愛着をもっと深めようという意味を込めて「ラブきおピー集会」と決定した。

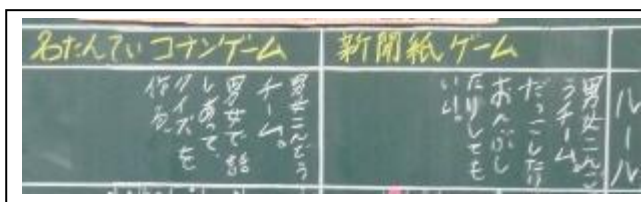
このように、全員が話し合わなければいけないという議題を選定することができたのは、特定の友だちだけではなく、学級の全員と仲良くしていきたいという切実感のある共同の問題を発見できたことが有効だったと考える。

【学級活動での話し合い】

柱① 「ラブきおピー集会」でどんな活動をするかについて

〈出し合う〉

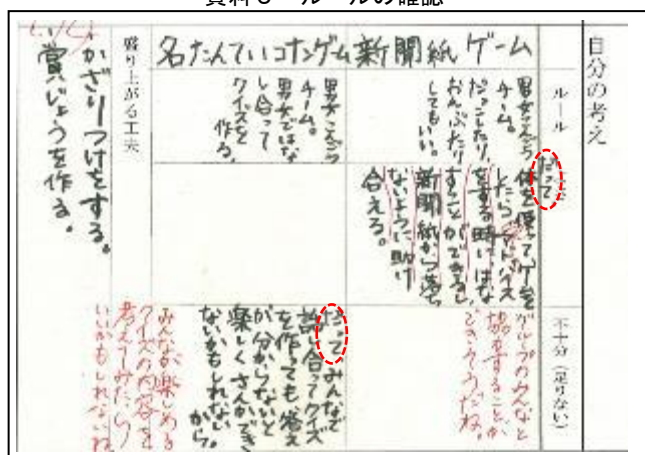
事前に二つの原案（新聞紙ゲーム・名たんでいコナンゲーム）に対して計画委員を中心に質問事項を確認し、ラブきおピー集会の活動をどのような流れで進めていくのか全体で共有した。



資料5 ルールの確認

そのため、話し合い活動では、ルールの確認もスムーズに進めることができ、比べ合う活動につなげることができた。

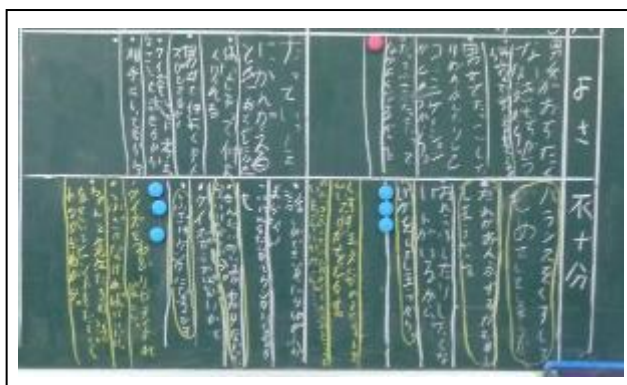
このように、みんなが同じ共通理解のもと、比べ合う活動につなげることができたのは、事前に学級会ノートに原案に対する自分の考えを語り出しの言葉に着目した「発言シート（資料3）」を活用し、まとめさせたことが有効だったと考える。



資料6 子供の学習ノート

〈比べ合う〉

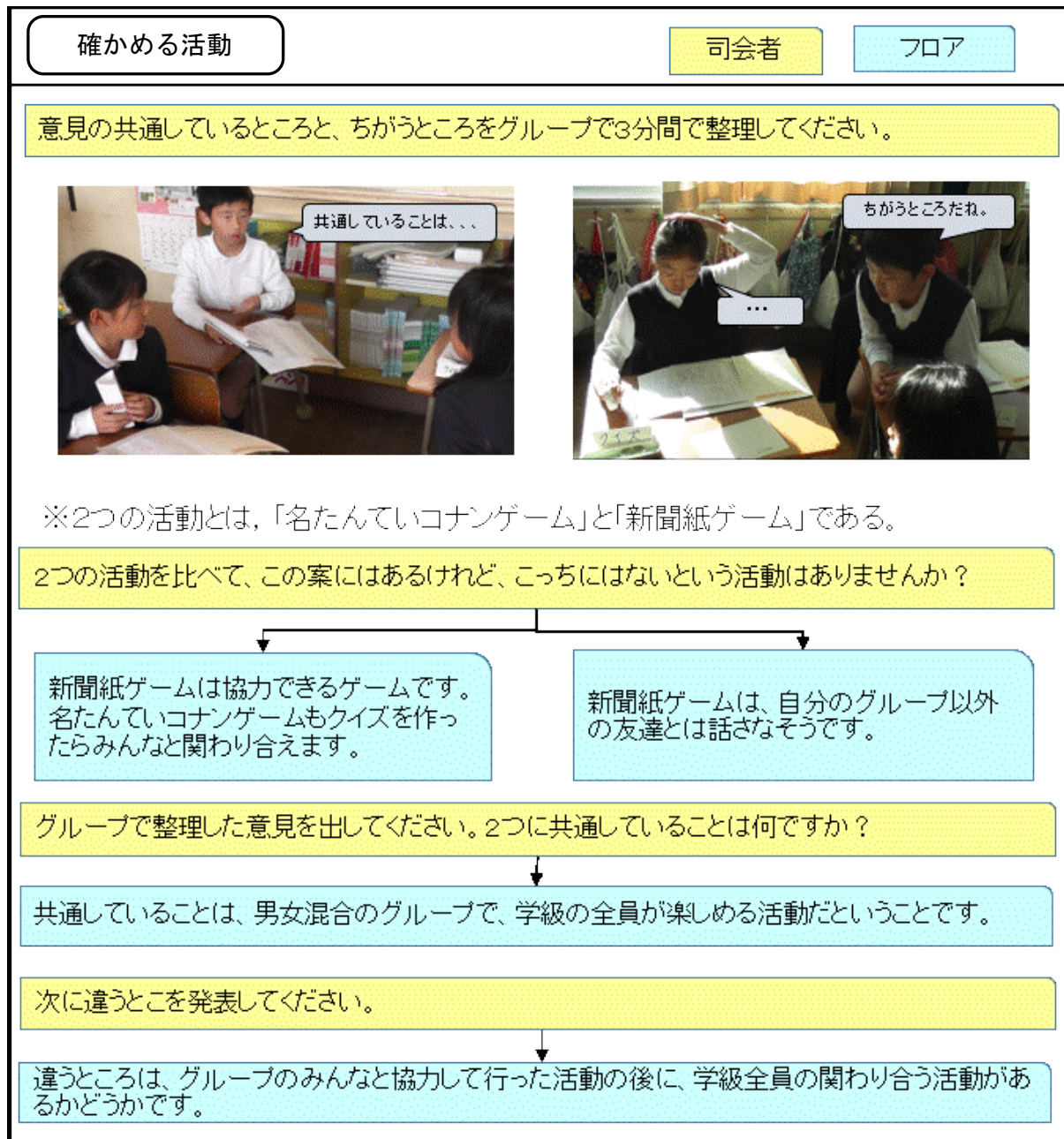
ここでは、男女の仲が深まるための活動は原案のどの活動をするよいかについて話し合った。2つの原案に対して子供たちからは、「名たんでいコナンゲームにすると、普段話さない人もクイズ作りを通して話すきっかけになる。」や「新聞紙ゲームだと、体格の差があってゲームが難しい。」といった賛成意見や原案に対する不十分な点の意見が出された。



資料7 原案の比べ合い

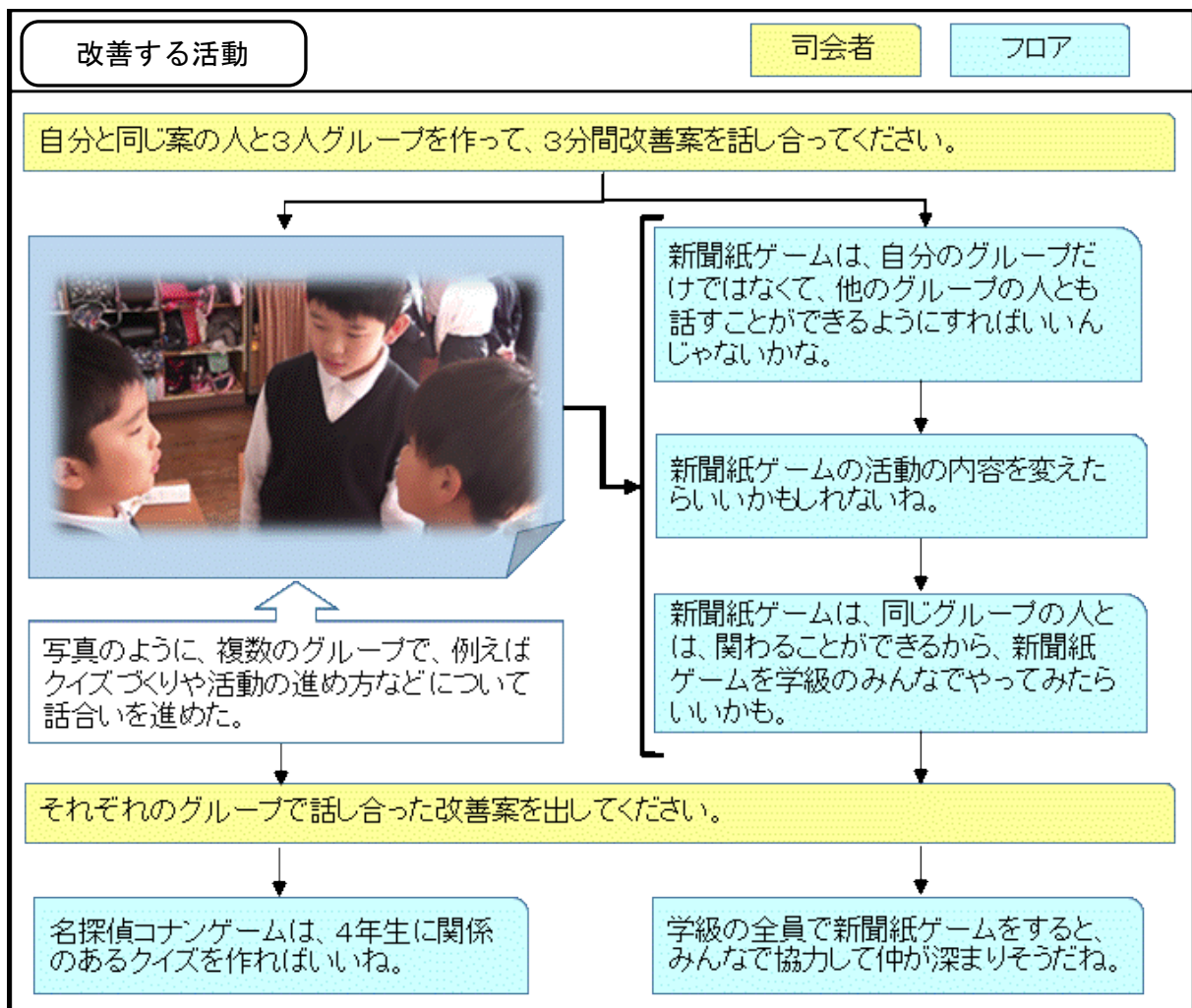
このように、意見が出されたのは、事前のアンケート調査を基に学級の男女の仲に対する課題を掲示しておいたことが有効だったと考える。

〈整理する〉-----



資料8 確かめる活動の実際

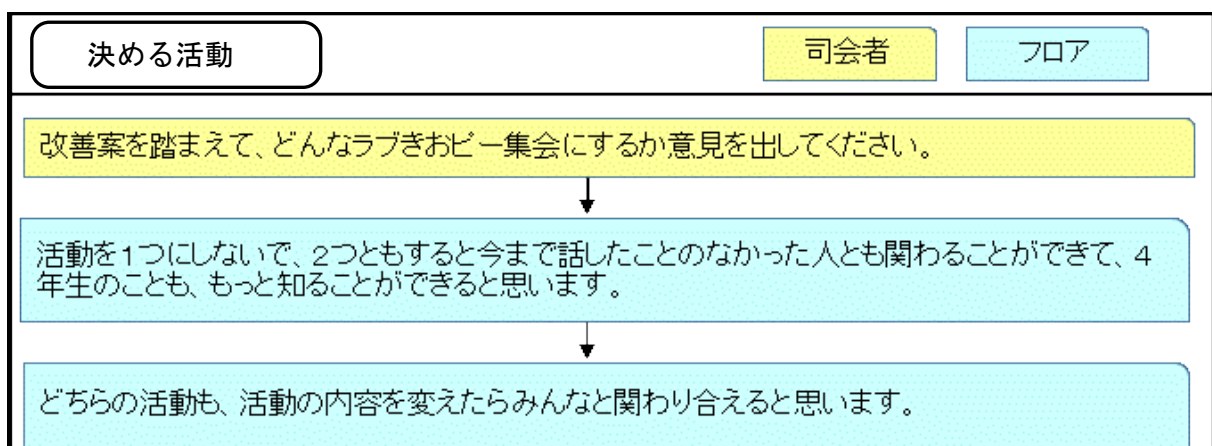
原案に対する意見が出されたが、どの活動が提案理由に合っているのか自他の意見を比べて考えることができるようにするために、同じ意見の人とグループを作り、話し合った。二つの原案に対する意見を「ちがうところ・共通するところ」を視点に、提案理由に合った活動はどれにあたり、そのために、どんなことに取り組んだらよいか、納得のいくものにできるよう整理した。小グループで整理した後は、司会進行のもと、全体で確認し、次の活動につないだ。話し合いの中で自他の意見を整理する場を位置付けたことは、考えを見つめ直す上で有効であったと考える。

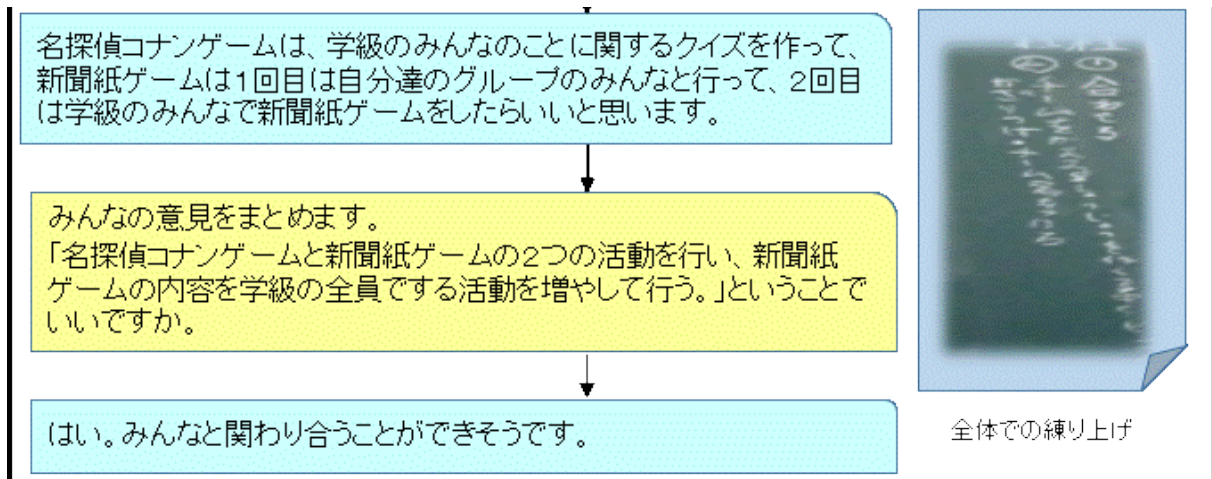


資料9 改善する活動の実際

次に、整理した考えをもとに考えを練り上げるため、同意する原案の子と3人1組になり、改善案を考え合った。子供たちからは、「違うグループの人とも話したり、かかわったりできる活動にしたい。」「1つにしないで、活動を2つともしたい。」という意見が出され、人の意見を聞くだけでなく、自分でよりよいアイデアを考えたり、提案したりすることができた。

このように、事前に改善案を小グループで考え合ったことは、全体での交流に移った時、多様な改善案を出し合う活動につながったと考える。





資料 10 決める活動の実際

決める活動では、小グループで考え合った改善案を全体で確認し提案理由にあったラブきおピー集会にするためには、どんな活動をするよいか練り合った。全体意見として出された「自分のグループの人だけではなくて、他のグループの人とも話すことができるようにすればいい。」という意見から「活動を2つ行い、活動の内容をより仲の深まるものを加えて活動する。」に決定し、みんながもっている願いを叶えるためにどんな活動の工夫ができるか考えることができた。

柱②どんな工夫が必要かについて

ラブきおピー集会を行うにあたって、どんな工夫ができるか出し合った。子供たちはこれまでの集会活動を生かした意見を多様に出し合った。その中で、みんなが楽しみ、盛り上がるラブきおピー集会にするために、「賞状を作る」「チーム名を考える」など、自分たちが行うことのできる工夫に集団決定することができた。



資料 11 意見を伝え合う姿

【事後の活動】

〈役割の自覚と準備〉

ラブきおピー集会に必要な役割と、それをいつだれが行うのかを決めて準備を行っていった。自分が遂行する役割や担当が決まってからは、教室に役割分担計画表を掲示し、学級の全員が共通理解できるようにした。掲示板に可視化することで、自分の役割を自覚し、計画を個人で立て、他の人からもどんな役割を誰が担っているのか分かるようにした。子供たちは、実践に向けて休み時間等を利用し、自分の役割に取り組んでいった。計画通りに進んでいないメンバーがいれば、仕事の進み具合を見て自分の分担の仕事でなくても、「手伝うよ」や「何か手伝おうか？」などお互いの役割の進み具合を確認して補い合っていた。自分の役割を遂行する中で、新たな問題に出会っても最後までやり遂げようと活動する子供たちの姿が見られた。



資料 12 役割を遂行する姿

【実践（ラブきおピー集会）】

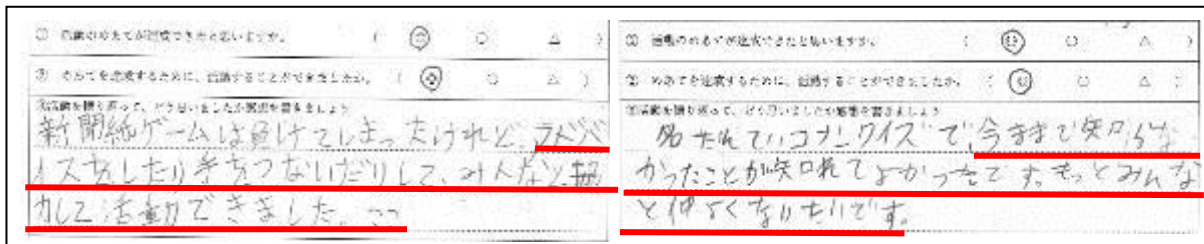
話し合いで決まった工夫を生かした「ラブきおピー集会」を行った。同じグループのみんなと話し合ってクイズを作る姿や男女一緒にグループのみんなと協力して、ゲームをする姿は、（資料13）提案理由にもある「男女の仲が深まり、学校1の男女仲よし学年」につながるものであった。集会後には、各グループの表彰をし、手作りの賞状やメダルを渡すといった自分の役割を果たす姿を見ることができた。

実践後の子供たちの振り返りから、普段話すことのなかった人とも話したり、かかわったりして協力して活動できたこと、みんなが楽しんで活動できたこと、そしてみんなとの仲をもっと深めていきたいという思いをもったことが分かった

また、自主的に活動する子供が多く見られたのは、整理する段階においてラブきおピー集会で行う活動に対して、どんな活動をすることが、学級全員の仲の深まりにつながるのかを明らかにすることができたからだと考える。



資料13 集会を楽しむ様子



資料14 ラブきおピー集会を実践した後の振り返り（左：A児 右：B児）

このように、学級のみんなとの心理的な結びつきを強化しようとする子供が多く見られたのは、議題選定の工夫において3つの視点のもとに、学級の問題に対しどんな活動をすることが、男女の仲の深まりにつながるのかを明らかにすることができたからだと考える。

資料14に見られるA児の「みんなと協力して活動できました。」という振り返りや、B児の「もっとみんなと仲良くなりたいです。」という振り返りから、特定の友だちだけでなく、男女の仲を深めることによって、3学期の学級生活にもつなげ、3学期もみんなと協力していこうという意識の高まりにもつながったと考える。

つまり、所属感や連帯感を深めることができる議題選定の工夫を中核とした実践活動を通して、共有性、責任性、創造性を発揮している姿を育むことができたと考える。

実践1についての考察

■議題選定の工夫の点から

共有性・責任性・創造性の3つの特性を発揮しながら集団の問題の解決に取り組む体験を重視する議題に選定したことによって、次のような子供の姿が見られた。

- ・多数の学級の児童が、男女の仲の満足感を感じていないという学級の問題を解決するために、原案に立ち返ってよりよいアイデアや方法を伝え合う姿。（資料11を参照）
- ・集会の計画を立て、準備を行い、協力し合いながら集会を行う姿。（資料12、13を参照）

以上のことから、議題選定の工夫をすることは、集団への積極的なかわりを持ち、共有性・責任性・創造性の3つの特性を発揮する上で有効である。

■学習過程の具体化の工夫の点から

自他の考えに折り合いを付けて、集団決定を図る整理する段階に「確かめる活動」「改善する活動」「決める活動」を位置付けたことによって次のような子供の姿が見られた。

- ・確かめる活動・・・小集団で討議をすることによって、原案の共通するよさと不十分さを比較し改善の視点を見出す姿。
- ・改善する活動・・・小集団で討議をすることによって、確かめる活動で出た改善の視点をもとに原案を練り上げ、原案の調整を図る姿。
- ・決める活動・・・学級全体で討議することによって、「私は」を主語にした考えを必然的に学級という「集団」を主語にして考えを伝え合う姿。

以上のことから、自他の考えを整理する話合いの工夫を生かした学習過程を具体化することは、自分の主張にこだわらず、他者の意見のよさを自分の考えに取り入れたり、相手の考えがよりよい改善案になるよう条件を考えたりする上で有効であると考えられる。

■言語活動の充実を促す支援の工夫の点から

「話す・聞く」といった活動の充実を支援することによって次のような子供の姿が見られた。

- ・自分の考えを語り出しの言葉に着目して学級会ノートをもとに表現する姿。（資料11を参照）
- ・相手の考えを批判的に聞くのではなく、肯定的に聞き、自分の考えを伝えようとする姿。

以上のことから、言語活動の充実を支援することは、「出し合う活動」で確認したことをもとに、原案のよさや、ほかの原案に見いだした不十分な点を主張し合う上で有効である。

■子供の育ちの変容の点から

		設問の内容	実践前	実践後
共有性	1	自分たちの学級には、どんな問題があるのか考えて、それを自分たちで力を合わせて解決しようとしていますか。	2.4	3.0
	2	根っこを太く強くするためには、みんなでどんなことに取り組んだらよいかを考えながら活動していますか。	2.3	2.8
責任性	3	学級の問題やみんながもっている思いや願いをかなえるために、どんな係や役割があったらよいかを考え活動していますか。	2.8	3.2
	4	自分がまかせられた係の仕事や役割を、と中でトラブルや新たな問題に出会っても最後までやりとげようとしていますか。	2.6	3.1
創造性	5	根っこを太く強くするための活動をよりよくするために、人の意見を聞くだけでなく自分でアイデアを考えたり、提案したりしていますか。	2.1	2.4
	6	みんなで考えたアイデアをいかした活動や集会を楽しんだり、ふり返ったりすることができましたか。	3.0	3.4

資料15 実践前後における仲間とつながる子供の姿の変容

資料15は、実践前と実践後にとった子供へのアンケート結果である。この数値の変化から特別活動における「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」といった本研究で目指す子供が身に付ける資質・能力の高まりが分かる。しかし5、6の項目については、平均スコアに伸びがあまり見られなかった。このことから、実践2における授業づくりの工夫の改善の方向性を明らかにする。

実践2に向けた話し合いの工夫改善の内容について

実践1を通して明らかになった授業づくりの課題は、次の点である

- ・的確な集団の問題の共通点と差異点を洗い出すことができていない。

そこで、実践2では、問題の共通点と差異点を的確に捉えることができるよう、改善シート(資料18を参照)を準備したり、同じ原案に賛成した少人数グループで改善の方向を見いだしたりすることを重視して、話し合いの改善を図る。

(2) 実践2 議題「係祭りの内容を考えよう」共通事項1-(ア)

① 本議題のねらい

- ・係活動の工夫を発表する係祭りについての話し合いを通して、提案理由に立ち返りながら語り出しの言葉を使って自他の考えをつなぐことや、共通点や差異点を整理して練り上げた改善案を基に集団決定をする話し合いの仕方を理解することができるようにする。(知識及び技能)
- ・係祭りに向けて係のみんなと協力して係祭りの内容を提案したり、学級の全員が楽しみ係のよさが伝わるかという観点から自他の考えを価値付けたりして、お互いの思いやアイデアをいかした係祭りを実践することができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・学級の全員が係活動の工夫を実感できる係祭りに関心をもち、係のメンバー一人一人が係祭りの内容を進んで考えたり、役割を分担しながら準備に取り組んだりして、係祭りを楽しもうとする態度を育てる。(学びに向かう力、人間性等)

② 授業づくりの構想

議題の選定について	学習過程の具体化について	言語活動の充実について
<ul style="list-style-type: none"> ・切実感があるか 係活動を頑張っているが、工夫した活動のよさが伝わらず、何とかしたいという思いをもつ。 ・本質にせまれるか 係活動をアピールすることが目的なので、必然的に同じ係の仲間とかかわる機会が多くなる。 ・実現が可能であるか プレゼンをしたり、集会活動をしたりした経験を生かして、自分達で準備を進めることができる。 	<p>～「整理する」段階を中心に～</p> <p>※図6を参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かめる活動では それぞれの原案に共通するよさや不十分さを確かめることができるように、3人グループで「改善シート」を用いて比較する。 ・改善する活動では 「改善シート」を基に、少人数のグループで、よさを生かしたり、不十分さを修正したりする調整思考を働かせて、原案をよりよい考えにつくり変える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級会ノートの作成 事前に、係祭りの活動内容についてのアンケートをとり、その結果を計画係が原案としてまとめる。原案をのせた学級会ノートに自分なりの考えをまとめた上で、話し合い活動に臨むことができる。 ・語り出しの言葉の活用 学級会ノートに自分の考えをまとめるときに、「だって」や「もし」「例えば」などの語り出しの言葉を使って表現する。

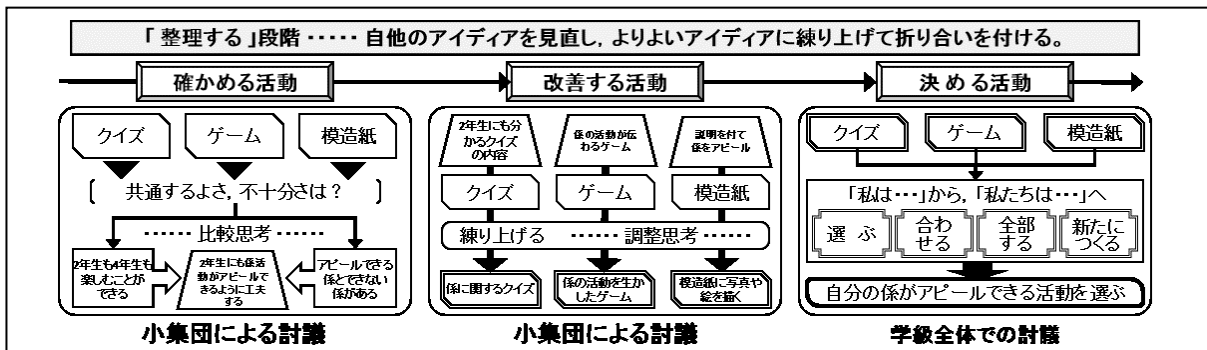


図6 「整理する」段階における具体的な活動構成

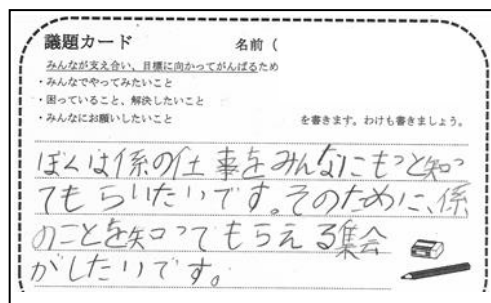
③ 指導の実際と子供の反応

自他の考えを整理する話し合いの工夫を中核とした、【事前の活動】【話し合い活動】【事後の活動】における自発的、自治的な活動の展開は以下のとおりである。

ア 活動の流れと子供の反応

【事前の活動】

1学期に比べて進んで工夫して活動できるようになった係活動であったが、子供たちの中には、「みんなで遊ぶ日に呼びかけているけれど、みんなが参加してくれない。」や「新聞を書いて掲示したり、ポストを作っていたりしているけれど、関心をもってくれない。」といったような係活動に対して満足感を感じていない子が多いという現状をつかむことができた。子供たちの中には、



資料 16 議題カード

自分たちの活動に対して、「関心をもってもらいたい・楽しんでもらいたい」という思いがある。そこで、学級目標「根っこ～友だちと支えあい、目標に向かってがんばるクラス～」に近づくよう、進んで工夫して係の活動ができるようになったことを係のお店を置いて紹介し、関心をもってもらう。そして、「3学期もみんなで協力して、目標に向かってがんばる学級にしていこう。」という思いを込めて係祭りの議題を選定し（資料 16）、自分たちで解決していこうという意識をもつことができた。

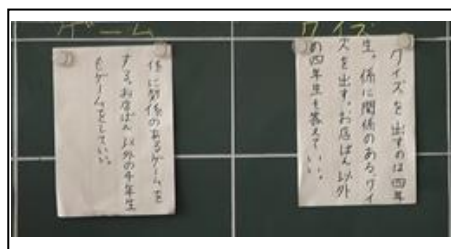
このように、全員が話し合わなければいけないという議題を選定することができたのは、活動を活発にしていきたいという切実感のある共同の問題を発見できたことが有効だったと考える。

【学級活動での話し合い】

柱① 係祭りでどんな活動をするかについて

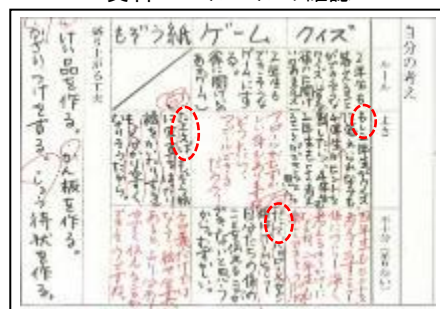
〈出し合う〉

事前に三つの原案（クイズ・ゲーム・模造紙で紹介）に対して質問事項を確認し、係祭りの活動をどのような流れで進めていくのか全体で共有した。そのため、話し合い活動では、ルールの確認（資料 17）もスムーズに進めることができ、比べ合う活動につなげることができた。



資料 17 ルールの確認

このように、原案のどの活動にするとよいか比べ合う活動につなげることができたのは、同じ共通理解のもと、事前に学級会ノートに自分の考えをまとめさせ、一人一人が三つの原案に対して、「発言シート（資料 3）」を活用し根拠を明確にした意見をもつことができたことが有効だったと考える。



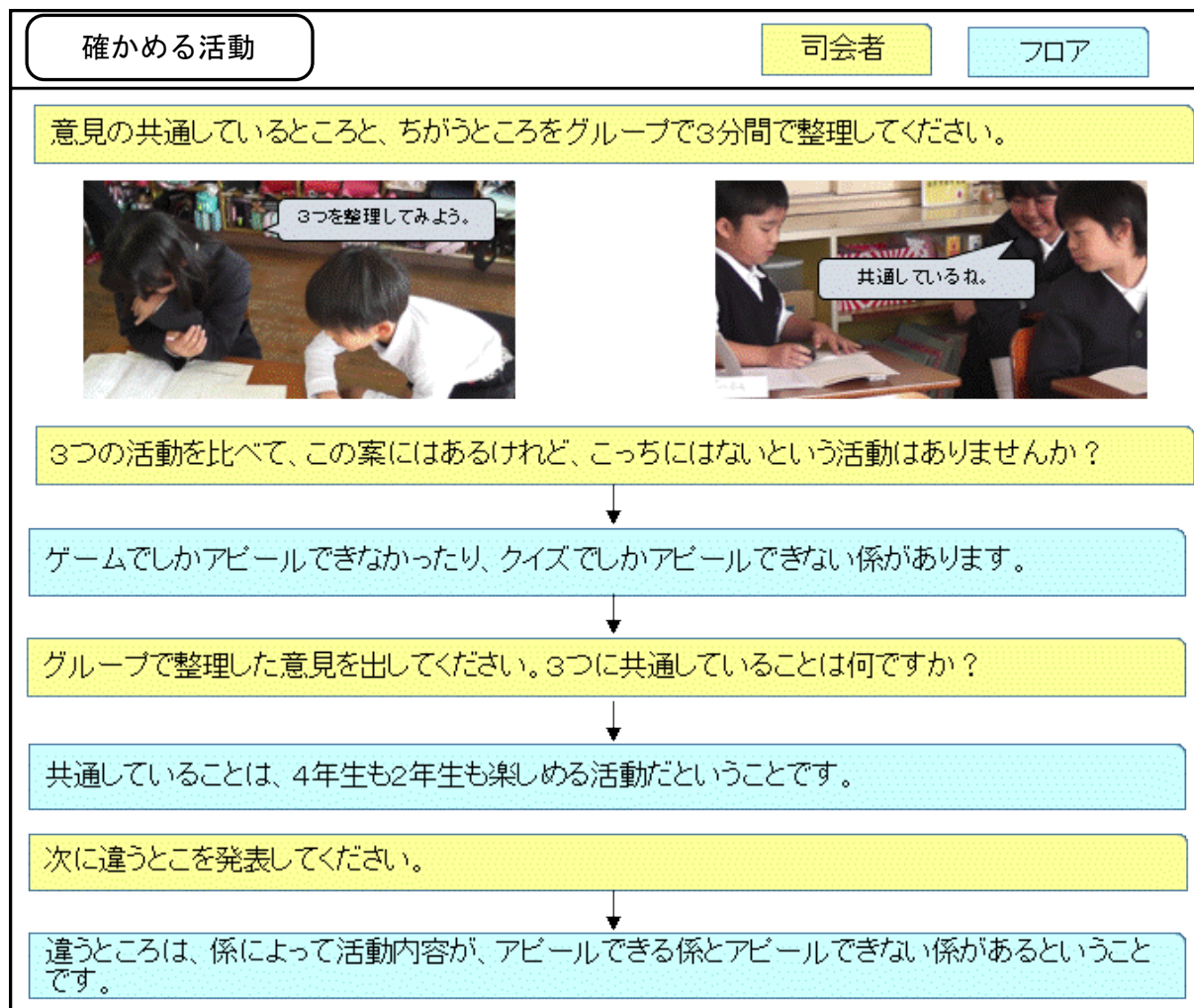
資料 18 学級会ノート

〈比べ合う〉 -----

ここでは、自分たちの係のよさを伝えるなら、原案のどの活動をするとういかにについて話し合った。3つの原案に対して子供たちからは、「模造紙に係の活動の説明を書いたら伝わると思う。」や「クイズだと係のよさをお店にしてアピールできない係もある。」といった賛成意見や原案に対する不十分な点の意見が活発に出された。

このように、意見が活発に出されたのは、課題を掲示しておいたことが有効だったと考える。

〈整理する〉 -----



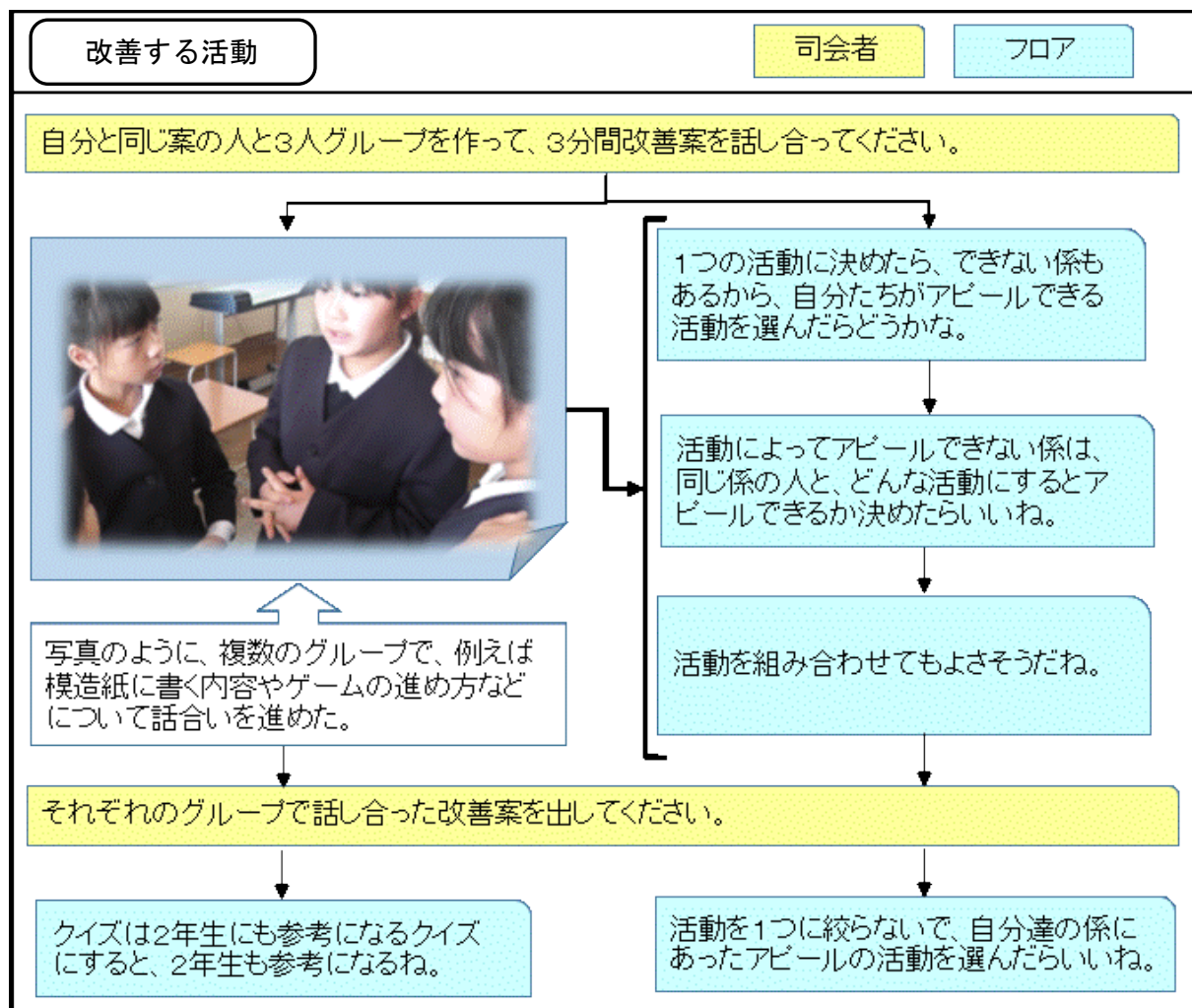
資料 19 確かめる活動の実際

このように、原案に対する意見が出されたが、どの活動が提案理由に合っているのか自他の意見を比べて考えることができるようにするために、小グループを作り、資料 20 のような改善シートを活用し話し合った。この改善シートとは、子供たちから出た三つの原案に対する意見を「ちがうところ・共通するところ」を視点に、提案理由に合った活動はどれにあたり、そのために、みんなでどんなことに取り組んだらよいのか、自他ともに納得

ちがうところ	共通するところ
<p>クイズやゲームで紹介する係がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生の専らを考えている。 ・4年生も2年生もできる。 ・係のアピールかできる。 ・楽しく聞いたり参加できる。 ・係のみならず考えること。

資料 20 改善シート

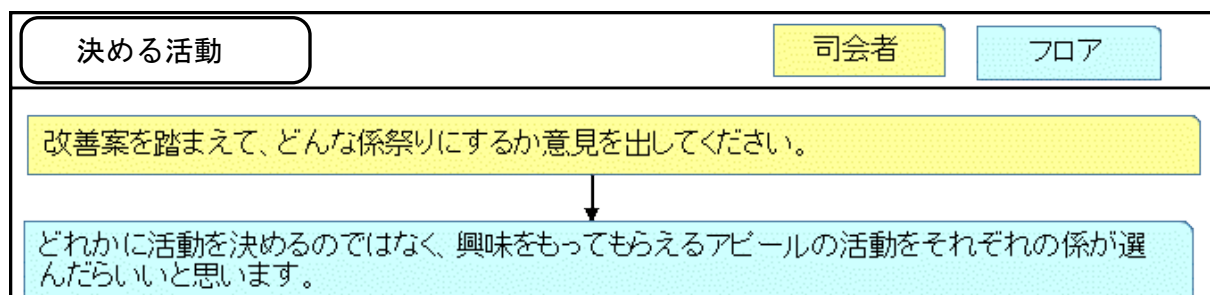
のいくもののできるよう整理した。小グループで整理した後は、司会進行のもと、全体で確認し、次の活動につないだ。話合いの中で自他の意見を整理する場を位置付けたことは、考えを見つめ直す上で有効であったと考える。

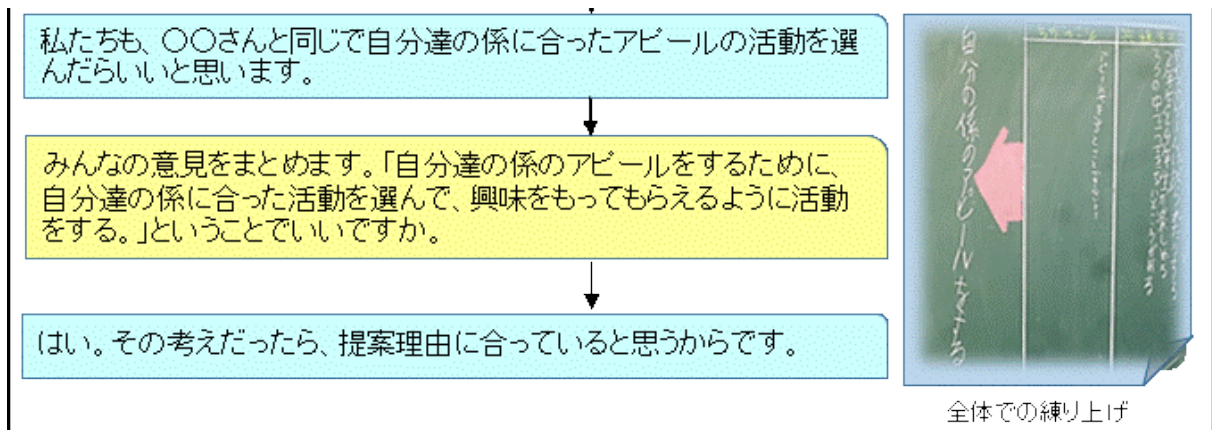


資料 21 改善する活動の実際

次に、整理した考えをもとに提案理由に合ったよりよい考えを練り上げるため、同意する原案の子と3人1組になり不十分な点を解決するための改善案を考え合った。グループで話し合いをする子供たちからは、「自分たちにあった活動をするといい。」「クイズをしたりゲームをしたり組み合わせてもいい。」という意見が出され、人の意見を聞くだけでなく、自分でアイデアを考えたり、提案したりすることができた。

このように、事前に改善案を小グループで考え合ったことは、全体での交流に移った時、多様な改善案を出し合う活動につながったと考える。





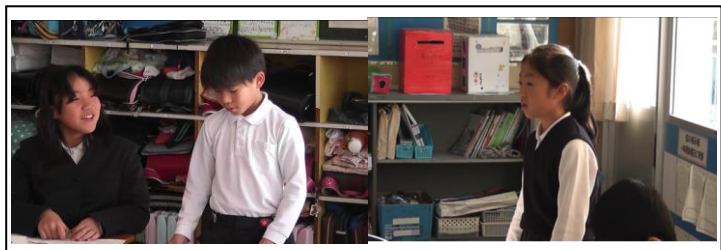
資料 22 決める活動の実際

決める活動では、改善案を全体で確認し、提案理由に合った係祭りをするためには、どんな活動をするかよく練り合った。全体意見として出された「1つの活動に絞ると係のよさをアピールできない係もある」という意見から「係に合ったアピールの活動を選ぶ」に決定し、みんながもっている願いを叶えるためには、どんな活動の工夫ができるか考えることができた。

このように、活動の内容を練り上げることができたのは、改善シート（資料 20）を活用し原案を整理することで、よさや不十分さを改善するための案を小グループで考え合うことができたからだと考える。

柱②どんな工夫が必要かについて

係祭りを行うにあたって、どんな工夫ができるか出し合った（資料 23）。子供たちはこれまでの集会活動を生かした意見を多様に出し合った。その中で、係祭りをみんなが楽しみ、盛り上がる係祭りをするために、「招待状を書く」「ハッピーを着る」「呼びかけをする」「看板を作る」など、自分たちが行うことのできる工夫に集団決定することができた。

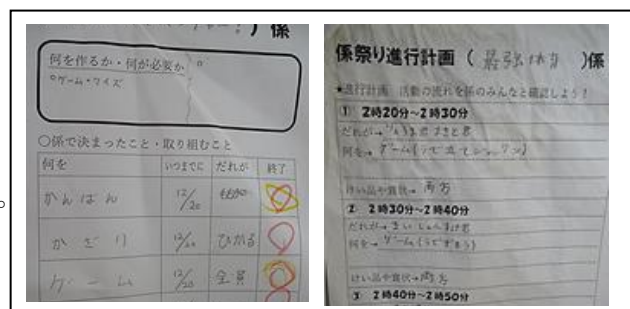


資料 23 意見を伝え合う様子

【事後の活動】

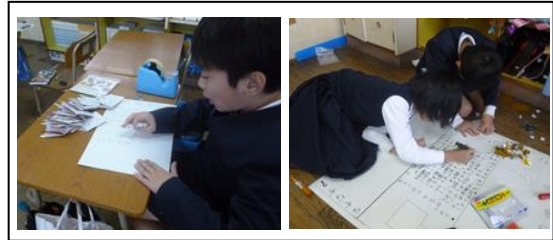
〈役割の自覚と準備〉

係祭りに必要な役割と、それをいつだれが行うのか決める活動を係ごとに行った。役割や担当が決まってからは、係の掲示板に役割分担計画表を掲示し共通理解した（資料 24）。なかなか役割分担が決まらなかった係は、他の係の役割分担を参考にすることができた。



資料 24 役割分担表

また、掲示板に可視化することで、自分の役割を自覚し、他のグループからもどんな役割を誰が担っているのか分かるようにした。子供たちは、実践に向けて空き時間等を利用し、自分の役割に取り組んでいった（資料 25）。仕事の進み具合を見て自分の分担の仕事でなくても、「手伝うよ。」や「何かできることある？」などお互いの役割の進み具合を確認し、自分の役割を遂行する中で、新たな問題に出会っても最後までやり遂げようと活動する子供たちの姿が見られた。



資料 25 役割に分かれて仕事を遂行する姿

【実践（係祭り）】

話し合いで決まった工夫を生かした「4の1係祭り」を行った。

- ・アピールするために呼びかけをする姿
- ・他の係のお店に行き係の出しものや説明を聞いている姿

これらの姿（資料 26）は、提案理由にもある「関心をもってもらい、楽しいと思える係祭り」につながるものであった。係祭り後には、2年生や来て下さった先生方を表彰し、子供たち手作りの賞状やメダル、参加賞、景品を渡すといったそれぞれの係で決めた自分の役割を果たす姿を見ることができた。

実践後の子供たちの振り返りでは、関心をもってもらうために係祭りで協力して活動できたこと、みんなが楽しんで活動できたこと、そして3学期に向けて係の活動をもっと工夫していきたいという思いをもったことが分かる。

また、係祭り後の子供たちの感想は、「〇〇の係のゲームの工夫がすごかった！面白かった！」「手紙ってあんな風にも折ることができるんだ。知らなかった。」など、自分たち以外の係の活動に目を向け楽しむことができたことが分かった。



資料 26 係祭りを楽しむ様子

<p>① 活動のめあてが達成できたと思いますか。 (<input checked="" type="radio"/> ○ △)</p> <p>② めあてを達成するために、活動することができましたか。 (<input checked="" type="radio"/> ○ △)</p> <p>③活動を振り返って、どう思いましたか感想を書きましょう</p> <p>私は、係祭りでいろんな係を見て、今までより係にきょうみがわいてきました。3学期、係は変わるかもしれないけれどどの係にもきょうみをもちて参加したいです。</p>	<p>① 活動のめあてが達成できたと思いますか。 (<input checked="" type="radio"/> ○ △)</p> <p>② めあてを達成するために、活動することができましたか。 (<input checked="" type="radio"/> ○ △)</p> <p>③活動を振り返って、どう思いましたか感想を書きましょう</p> <p>自分たちの係だけではなく、ほかの係のよいところをみつけたからよか。たです。3学期はちがう係でもちゃんと活動していきたいです。</p>
--	---

資料 27 係祭りを実践した後の振り返り (左：A児 右：B児)

このように、自主的に活動する子供が多く見られたのは、整理する段階において係の活動に対しどんな活動をすることが、係のアピールにつながり、その係の活動に興味をもってもらえるのかを明らかにすることができたからだと考える。

資料 21 に見られる A 児の「どの係にも興味をもって参加したいです。」という振り返りや、B 児の「3 学期は違う係もちゃんと活動していきたいです。」という振り返りから、係の活動をアピールすることによって、3 学期の係活動にもつなげ、3 学期もみんなで協力していこうという意識の高まりにもつながったと考える。

つまり、自他の考えを整理する話合いの工夫を中核とした実践活動を通して、共有性、責任性、創造性を発揮している姿を育むことができたと考える。

実践 2 についての考察

議題選定の工夫と言語活動の充実を促す支援工夫の有効性は、実践 1 において有効性が検証できたので、実践 2 では、「学習過程の具体的な支援」を中心に考察する。

■ 学習過程の具体化の工夫の点から

- ・ 自他の意見を比べて考えることができるように、「ちがうところ・共通するところ」を視点にした改善シートを活用し、他の原案と調整を図るアイデアを検討することができた（資料 16 を参照）。
- ・ 改善する活動で、同じ原案に賛成した小集団で討議をすることによって、確かめる活動で出た改善の視点をもとに、自分の主張にこだわらず、他者の意見のよさを自分の考えに取り入れ、考えがよりよい改善案になるよう条件を考えることができた。

8 研究のまとめ

(1) 研究の成果

本研究の成果については、次の 2 点から整理する。

- ・ 「自他の考えを整理する話合いの工夫」を構想、整理する段階に位置付けて自他のアイデアを比較・調整させたことは、仲間とつながる子供を育てることになったか。
- ・ 議題選定の工夫、学習過程の具体化、言語活動の充実を促す支援の 3 点から授業づくりを構想したことは、「自他の考えを整理する話合いの工夫」の具体化を図ることになったか。

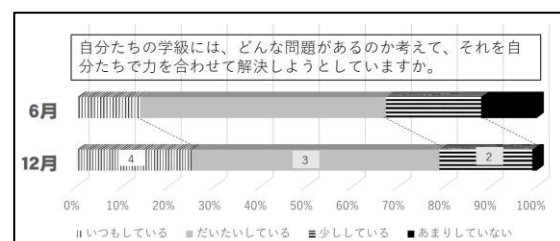
① 「自他の考えを整理する話合いの工夫」の有効性について

実践 1 及び実践 2 における仲間とつながる子供の育ちは、資料 28, 29, 30 に示すとおりである。

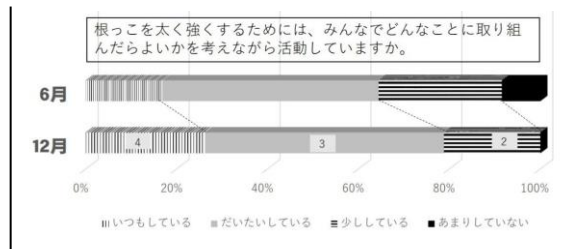
- ・ 4 件法で実施したアンケート（資料 4）についての平均スコアは 3.0 を育ちの目安とした。
- ・ 実践 1 で 4 件法の平均スコアが低かった 5, 6 の項目についても確かな伸びが見られ、実践 2 ではほとんどの項目のスコアが 3.0 以上になった。

○ 共有性に関して

集団をよりよくするための目標を意識し、活動しようとする子供の自己評価の平均スコアが上昇した（資料 28）。これは、活動の目標や学級の問題を解決するための目標を学級の全員で作り、その目標について共通理解をもつことができたか



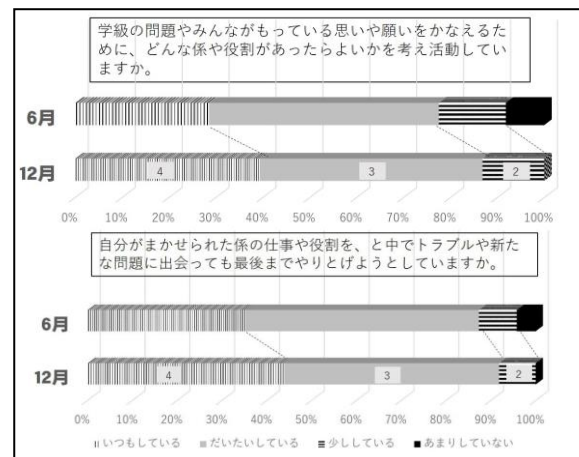
らだと考える。そして、目標を学級全体で共有したことは、学級の仲間とのかかわりを見つめ直し、学級の生活上の諸問題を解決しようとする実践意欲を育むことにつながったと考える。



資料 28 共有性に関する子供の姿容

○ 責任性に関して

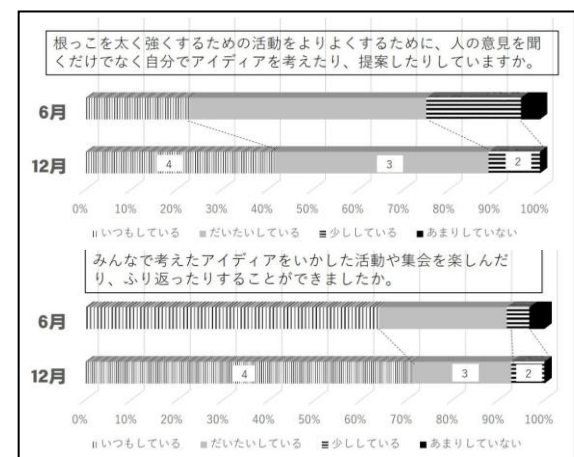
学級の問題を解決し、みんなの思いや願いを叶えるために、自分が担う係や役割を考え、責任をもって遂行しようとする子供の自己評価の平均スコアも上昇した（資料 29）。これは、話し合いで決まった問題の解決方法を、一人一人が自分が担う係や役割を意識して遂行しようとしたこと。また、その過程で自他のよさを認め合い、生かし合う集団活動を展開することができたからだと考える。さらには、役割や責任を必然的に意識する小集団による話し合いや活動を柔軟に設定したからである。



資料 29 責任性に関する子供の姿容

○ 創造性に関して

学級の問題を解決するために、どのようなことをしたら解決できるかアイデアや方法を考えてたり、提案したりしようとする子供の自己評価の平均スコアの値が上昇した。特に、アイデアを考えたり提案したりすることに関して、「いつもしている」と答えた子供の割合が大きく伸びている（資料 30）。これは、問題を解決する方法の取組に対するよさや不十分さを共通点や差異点を踏まえて、学級全員で見だし練り上げ、活動や集会後は振り返ることができたからだと考える。



資料 30 創造性に関する子供の姿容

② 議題選定の工夫、学習過程の具体化、言語活動の充実を促す支援について

ア 所属感や連帯感を深めることができる議題選定の有効性

議題選定の工夫について重視したことは、学級の諸問題からよりよい集団像を明確にして、課題を解決するためにはどんな活動ができるか、「切実感があるか」「本質にせまれるか」「実現が可能であるか」の視点を具体化し、原案を作成したことである。

このことにより、仲間との心理的な結びつきを強めたり、課題を見だししたりして、提案理由に

合う活動や工夫等を追求する子供の姿が見られた。

したがって、所属感や連帯感を深めることができる議題選定をすることは、「自他の考えを整理する話合いの工夫」の具体化を図る上で有効だと考える。

イ 自他の考えを整理する話合いの工夫を生かした学習過程の具体化の有効性について

学習過程の具体化の有効性は、「整理する」段階を「確かめる」「改善する」「決める」という三つの活動に位置付けたことである。

このことにより、実践1、2の考察に示したような共有性、創造性、責任性の発揮を促す活動を位置付けるとともに、以下の学習活動の工夫を具体化することができた。

- ・確かめる段階では、原案に対する共通点と差異点を改善シートを活用し整理したことで、提案理由に合った活動はどれに当たり、そのためにどんなことに取り組んだらよいのか、自他ともに納得できるようにしたこと。
- ・改善する段階では、自他のアイデアを改善する活動における視点や、自他のアイデアを練り上げる活動における調整を図る活動を意図的に設定したこと。

以上のことから、自他の考えを整理する話合いの工夫を生かした学習過程の具体化をすることは、「自他の考えを整理する話合いの工夫」の具体化を図る上で有効だと考える。

ウ 言語活動の充実を促す支援の有効性

実践1、2の子供たちの学習ノートや話合いでの発言から、根拠が明確な発言を引き出すために発言シートを開発したり、学級会ノートに自分の考え表現させたりしたことは、集団をよりよくしようとする話合いの深まりにつながる上で有効であったと考える。

(2) 今後の課題

本研究では、問題を解決する方法を見いだす話合い活動の基本的な過程を、「出し合う」「比べ合う」「整理する」という三つの段階で構成することによって、仲間とつながる子供を育てる指導法の具体化を図った。今後は以下の視点から研究を発展させていく。

- ・練り上げたアイデアについて集団決定を図る「決める」活動で「選ぶ」「合わせる」「新たにつくる」という決め方を効率的に選択する活動の仕組みを明らかにすること。
- ・比較、調整、統合という思考を促す「語り出しの言葉」をさらに具体化すること。

<参考文献>

- ・文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』
- ・文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター (2016) 『楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)』
- ・福岡県小学校特別活動研究会 (2017) 『研究紀要 主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育てる特別活動の創造』
- ・杉田 洋 (2015) 『特別活動の教育技術』